

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-314964
(P2007-314964A)

(43) 公開日 平成19年12月6日(2007.12.6)

(51) Int. Cl. F 1 テーマコード (参考)
E 0 2 B 7 / 4 0 (2006.01) E 0 2 B 7 / 4 0 2 D 0 1 9

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号	特願2006-143293 (P2006-143293)	(71) 出願人	501203344 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 茨城県つくば市観音台3-1-1
(22) 出願日	平成18年5月23日(2006.5.23)	(71) 出願人	000230973 日本工営株式会社 東京都千代田区麹町5丁目4番地
		(71) 出願人	000241290 豊国工業株式会社 広島県広島市東区光町1丁目11番5号
		(74) 代理人	100086852 弁理士 相川 守

最終頁に続く

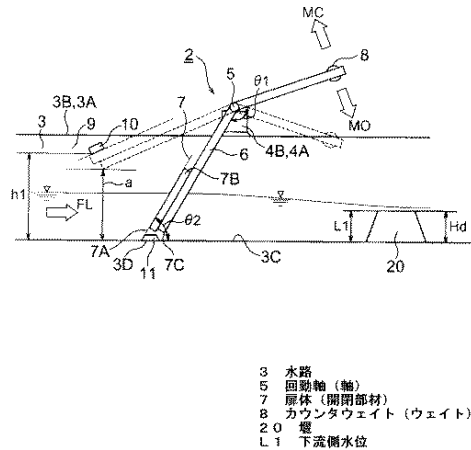
(54) 【発明の名称】 止水ゲートの開閉構造

(57) 【要約】

【課題】 駆動装置を用いず、洪水時でもその後の通常時にも、現場でのゲートの操作を不要とする。

【解決手段】 止水ゲート2は、水路3の上方で幅方向に架け渡され回転自在に支持される回転軸5と、この回転軸5に取り付けられたアーム6と、このアーム6の上流側端部に取り付けられ水路3を開閉する扉体7と、アーム6の下流側他端に設けられ扉体7に開方向のモーメントを付与し閉方向の力が加えられると扉体7の開動作を許容するカウンタウエイト8とを備えている。カウンタウエイト8は、常時、扉体7に開方向に回転する回転モーメントを付与し、扉体7は開状態でストップ10に当接し、高水位で閉動作するようになっている。水路3には、堰20を設け、この止水ゲート2の下流側の床が高くなるようにしている。

【選択図】 図3



3 水路
5 回転軸 (軸)
7 扉体 (開閉部材)
8 カウンタウエイト (ウエイト)
20 堰
L1 下流側水位